



# JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING (JSIN)

## 国際看護研究会 NEWSLETTER No.80 2016



バヌアツでの青年海外協力隊活動－健康診断結果の結果報告集会の様子（IV．海外情報参照）

本号の内容は以下のとおりです。

- I. 第 82 回運営委員会報告
- II. 第 80 回国際看護研究会講演会報告
- III. 第 81 回国際看護研究会講演会案内
- IV. 海外情報
- V. 第 19 回国際看護研究会学術集会案内
- VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

## I. 第 82 回運営委員会報告→次号に報告

国際看護研究会第 82 回運営委員会は 2016 年 1 月 31 日（日）に延期となりました。次号の NEWSLETTER で報告します。

## II. 第 80 回国際看護研究会講演会報告

日本保健医療大学保健医療学部准教授 岸田敦子先生

医療保健スタッフ自身が持つスピリチュアリティを母子保健の現場で輝かせる重要性  
” 発展中の国々や災害地での国際ボランティアを経験し受け取った智慧”

国内・海外の災害地や、発展中の国々で活動する中で、気づいたことがあります。それは、相手（国）と自分との相互作用を最大限に引き出し、効果的に事態をよりよい方向に導いていくために必要不可欠で大切なことについてです。本講演では、自分と相手のスピリチュアリティで対話し、重ね合わせていくというプロセスの中で起きてくる効果性の高い援助のことや、人間が人間である限り、死に直面するような極限の状態に置かれたとき、肉体を救うのと同時に魂レベルにアプローチされる必要がある、という観点からお話しさせていただきました。



冒頭に申し上げておきますと、私の講演のタイプは、講演・講義形式というよりは参加型でありプロセス型であるため（当日の参加者と私とのダイナミクスによってプロセスが変わっていく相互作用を使った講演形式）要旨を読んでいただいても全体像を把握することは難しいかもしれませんが、できる限り当日の内容が伝わるように記述させていただきますことをご了承ください。

また、私がフィリピン、バングラデシュ、兵庫、東北、新潟、京都、長野などの災害地や開発途上国で得た“自分の中にあるスピリチュアリティを開放し”“お互いにスピリチュアリティで対話する”という体験を、実際に参加者の皆様に体感していただくために、心理学的手法を用いたワークを行いご自分の内側と対話する、というような時間を多くとりましたので、参加していただいていないと分かりにく

くいは存じます。その限界がありますことをお伝えしておきます。

さて、講演に先立ち、まず参加者（以降参加者には本講演者も含みます）全員で、「私にとって[医療・保健職]とは何ですか？」という漠然とした問いに答えました。その上で、一般的な概念から始まり“看護職”とは



何か、” “スピリチュアリティ” “スピリチュアルケア” とは何かを仮の概念として提示し、その場で使う共通言語として確認いたしました。

一部を記述いたしますと、このような定義です。スピリチュアリティとは→ “生きがい、生きる意味づけ、心の安寧・平和、良心、宗教心、幸せ、幸福感、歓び、人や目に見えないものとのつながり、生死に対する想い、愛、光、潜在意識、等々”。我々母子保健に関わる専門家は助産師の国際倫理綱領にも明記されているように、対象の霊的ニーズにアプローチすることが必要不可欠ではないだろうか、という観点から、医療保健専門家とは→ “自分の専門職技術を切り口として母子とその家族を霊的安寧の方向へ導くことでウェルネスを拡大してゆく専門家である “等です。

定義をその場で仮に表現した、としても実際には定義した言葉遣いさえも、それぞれが持つ概念が違うので、スピリチュアリティを語り合うのはやっかいな作業です。であったとしても、その限界は分かった上で、とにかく体感してみよう、の時間だったと思います。限界を前提の上で、自分のスピリチュアリティ（とやら）を開放し、（擬似的かもしれませんが）、その場の参加者の皆様と相互に交流することによってどのようなダイナミズムが起こり、それをどのように自分が感じるのか、という部分を皆様でそのままに味わっていただくという時間を過ごしました。

中には、タイトルとどのように体感体験がつながるのか懐疑的な参加者の方もいらっしゃいましたが、現在の自分がスピリチュアリティを開く、という旅をどこまで出来て、どのように体験し、冒険し、感じたのかはそれぞれの段階であるでしょうし、それ自体が良し悪しでもありませんので、そのまま受け取っていただければということだと思います。そしてまた、自分のスピリチュアリティを感じ取れた方々は、そのスピリチュアリティと参加者同士のスピリチュアリティがつながった感じを、なんとなく、でも感じていただけたのではないかと、思っています。



スピリチュアルケアの定義はワルデマール・キッペスを筆頭に世界にも日本にも様々ありますが、このように参加者同士でも、スピリチュアリティの窓を開けた者同士のエネルギーがスパークし合い、何らかの融合されたアートが生み出される時、そこにはスピリチュアリティを使っての看護があります。そしてそれが、身体的、心理的、社会的看護ケアと同時に、並行して需要がある効果的な看護として成り立つのではないだろうか、と問いかけを行い終了いたしました。続きはまたいつか語り合えたら幸いです。

### Ⅲ. 第 81 回国際看護研究会講演会のご案内

【講師】 渡邊香先生(国立看護大学校)

【日時】 2016年3月12日(土) 13時～15時

【会場】 JICA 市ヶ谷 201AB

## 【テーマ】ベトナムにおける活動と今後の課題－思春期に関する研究活動／助産活動への支援

アジアの中でも近年の経済発展および社会変化が著しく、人々の生活に劇的な変化が起きているベトナムにおいて、2011年から取り組んでいる思春期の性意識の規定要因に関する研究活動について、お話しいたします。また、現在発展途上にある同国の母子保健の中でも、特に重要な産後の母子支援について、今後の方策を見出すためにベトナム国内の助産師らとともに取り組んだ活動についてもお話いたします。

## IV. 海外情報

JICA 青年海外協力隊 26 年度 3 次隊 三塚麻貴氏

### バヌアツの協力隊活動 その 2

バヌアツに来て半年が経った 6 月に活動計画を立て、以下に示すように目標①～③をアプローチする対象ごとに分け立てました。

目標①：地域住民を対象とし、彼らが健康について触れる・考える機会を多く作る。

目標②：個人を対象とし、ニーズやリスクに合わせた健康教育を展開し、個人が自発的に健康レベルを維持・向上できる。

目標③：バヌアツ人を対象とし、活動がボランティアだけで展開されるのではなく、地域や医療従事者の力を借りながら活動を進める。

#### 1)活動の進捗状況

目標①に対しては、まず、村の全成人対象の健康診断を半年ごとに 2 回実施し、それぞれ受診者数は 321 人、288 人となりました。実施後は壁新聞を貼りだすとともに結果報告集会を開きました。第 1 回健診の翌月からは毎週末教会で無料の健康診断エリアを設け、自身の体に関心を持つ機会を作っています。健診項目は体重・血圧・血糖値となっています。この活動を始めたころは測定に消極的な村人がほとんどでしたが、最近では列を作る日も多くなっています。体重が増えた理由を自分で考え、私に説明してくれる人や、前回値と今回値を村人同士で話している光景もみかけます。また、目標①に対しては、健康に関するポスターを合計 7 種類作成しました。

目標②に対しては、これまでに健康教室を 5 種類実施しました。(①中高生に対して性教育(右写真)、②妊婦に対し貧血予防教室③小学生に対し砂糖教室④畑を持つ村人に対して野菜教室⑤妊婦と妊娠カレンダーの作成)



また、バヌアツ国全土で行われる予防接種のキャンペーンに向けて、紙芝居を作成し、予防接種対象者や家族に、なぜこの予防接種を受ける必要があるのかの説明を行いました。



目標③に対しては、健康教室の準備から実施に至るまで配属先スタッフに必ず関わってもらっています。また、適宜機会を得て、他ヘルスゾーンの医療従事者に私の活動紹介を行っています。予防接種キャンペーンの際は、州保健所長の後押しもあり、同州保健所とサント島の全てのヘルスゾーンに合計で13部、②で述べた自作の予防接種紙芝居を配布する運びとなりました。

## 2)着任後1年時点の活動結果と課題および課題に対する解決案

第1回健康診断と半年後に行った第2回健康診断の結果を比較すると、全健診受診者に対して糖尿病の疑いがある人が第1回では男性35%・女性43%であったのが、第2回では男性16%・女性33%に減少しました。加えて、第1回と第2回ともに健診に参加した人の体重を比較したところ、平均して1人あたり0.66kg減少している結果となり、活動の成果が少しずつ見え始めていると感じています。

成果が見え始めている反面、活動の修正もしていかななくてはならないと感じています。様々な健康教室を行っている現在、1つ1つが独立した単発のものとなっており、活動の質を高めることが難しいと感じました。そのため、カウンターパートと話し合い、今後はnon-communicable disease(以下、NCD訳:生活習慣病)対策を活動の軸とすることとしました。その背景として、高度肥満率・糖尿病有病率・高血圧有病率がバヌアツ国のデータと比較して高く、今後NCD患者が急激に増加する可能性が極めて高いことが健康診断の結果からみられたからです。

さらに、活動姿勢も変えてゆく必要があると感じています。これまでは『健康教育の手法を見せる』という活動姿勢できたため、ボランティアが活動の中心にいることがほとんどでした。ですが、バヌアツに来て1年が経過し、今後は『バヌアツ人が健康教育を行う』ということを目標に掲げ活動してゆこうと考えています。(次号へ続く)

次回は、3)社会的格差に対する所見、4)バヌアツ国の食事についてお伝えします！

## V. 第19回国際看護研究会学術集会案内

---

日時：2016年11月26日(土)

場所：京都市国際交流会館 (<http://www.kcif.or.jp/HP/kaikan/top/jp/index.html>)

会長：京都橘大学 河原 宣子 氏

テーマ：「国際看護活動を担う人材の育成に向けてー地球的視野を育むー」(仮)

\*詳細は今後NEWSLETTERやホームページでお知らせします。

## VI. 皆様へのお願い・お知らせ(事務局より)

---

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございました。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

1. 2014年度、2015年度の会費を未納の方は、至急お振込みをお願いします。

研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。

年会費：一般会員 3,000 円、学生会員（大学院生を含む） 2,000 円

年会費振込先：**国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478**

**銀行からゆうちょ銀行に振込む場合**

**店名 〇一九店 店番 019 預金種目 当座預金 口座番号 0121478**

振込用紙の通信欄にご記入いただく内容：

【一般会員の方】・一般会員の口に印を入れ、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

【学生会員の方】・学生会員の口に印を入れ、学校名・学部学科・学年、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

\* 払込用紙の金額 3,000 円を 2,000 円に修正してご使用ください。

2. 最近 NEWSLETTER が転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所をご連絡下さい。尚、海外にも NEWSLETTER をお送りしています。

3. NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。



4. 国際看護研究会 HP トップページへ掲載する写真を随時募集します。会員個人が撮影した写真をキャプション（例えば「フィリピン 助産師の母子健診風景」）付きで研究会メール宛添付し、会員名を掲載してよろしいかどうかを明記の上、お送りください。写真はできれば JPEG で、縮小しないでご提出ください。お送りいただいた時点で、写真の使用を研究会に許可（HP 上のみ）いただいたこととなります。

5. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。

6. 第 18 回学術集会抄録の残部があります。購入を希望される方は宛先を書いた A4 サイズの封筒と抄録代金 600 円及び郵送料 205 円の合計 805 円分の切手（100 円以下の小額が望ましい）を国際看護研究会事務局にお送りください。第 17 回までの抄録については、お手数ですが事務局にお問い合わせください。

国際看護研究会連絡先（事務局）／NEWSLETTER 発行元

E-mail：[kokusaikango@iris.ocn.ne.jp](mailto:kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)

ホームページ：<http://www.jsin.jp/>

年会費振込先：国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478

ゆうちょ銀行 〇一九店 店番 019 当座預金 口座番号 0121478

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、NEWSLETTER の記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします



国際看護研究会 NEWSLETTER No.80 2016

---

2016年1月15日発行

無断複写複製不可

---